

小論文を書こう！

小論文と聞いて、「得意です」という人は少ないと思います。他の人に何かを的確にわかりやすく伝えるということは難しいものです。ましてや、それで納得してもらおうとなればより一層難しい。高校を卒業してしまうと、書き方の指導をしてもらう機会がほぼなくなり、逆に、論文や志望理由書、企画書など、自分の意見を誰かに伝える機会が増えます。自分の考えを他の人に伝えて納得してもらう、わかってもらうというのは、生きていって上位、社会生活を充実させる上で必要ですよね。その時に自分の意見を十分につくっていけるように、伝えていけるように、高校の間に学習していきたいところです。

3つの観点で伝えます。その後で練習しましょう。

《其の壱：小論文と作文は違う》

作文 →あるテーマに対し、自分の体験や気持ちを述べるもの。

小論文→あるテーマを分析し、自分の意見を論理的に述べるもの。

相手に伝えて、納得してもらうのが大切であって、「それはあなたの勝手な思いでしょ？」と言われないようになるのが大事です。具体例や体験談についても入れればよいというわけではありません。自分の主張を伝えるために、根拠や説明を加えていくのです。

英語の時間に PREP の学習をしていると思います。Point、Reason、Example (Explanation、Experience、Evidense)、Point の頭文字ですね。元々の日本語的な伝え方と違い、主張を先に行い、その後で説明を加えていく流れです。まず答え。面接や答弁でも大切になるスキルです。練習しましょう。

論理性が大切です。P・R・E・P に一貫性(つながり)がないと伝わりません。もっと言うと、問い合わせられて、Question→PREP に論理的整合性が必要です。今何を問われているのかを普段から気をつけましょう。

2. 「小論文」の書き方

単なる「自分の感想」にしかすぎない。

昨日、クラスのみんなと遠足をした。天気はよかつた。木場潟まで歩いて、そこの公園みたいなところで、記念写真を撮つた。それからクラス対抗で大縄飛びをして、ぼくのクラスが一番になつたので、とても嬉しかつた。今度また行きたいと思う。

問 1
これは小論文？

2 「小論文」の書き方

遠足の意義についての自分の意見を、相手に納得させるように論理的に述べることができ

一年生の四月における遠足は実施すべきだと私は考える。遠足を実施することで、新しいクラスメイトと話す機会が増え、友達になる可能性があり、その後の充実した学校生活へとつなげていけることができるからだ。私が参加した遠足では、

問1
これは小論文？

《其の弐：材料集め》

「書くことないー」「書けんー」という声をよく聞きます。内容があれば比較的に書きやすくなるはずです。問題を見てすぐに書き出せることは絶対にありません。 ①テーマに関して思いついたことや考えをたくさんメモし、②それを論理的に並べていくという流れです。まずは質より量です。テーマから連想されること、知っていること、アイデアをたくさんたくさん出しましょう。

★まず、練習としてステップ①に取り組みましょう。

ブレインストーミングは数が大事！

《其の参：実際に書く》

たくさんメモした内容から、どの内容を使って書くのかを考えます。大切なのは、要旨（プロット）をしっかりとつくることです。小論文の試験でも、試験開始で書き始めません。其の弐～其の参で取り組んだことを本番でも実践します。（試験時間には注意。）問い合わせ、主張と根拠があるか、筋が通っているか、内容の順番はそれでいいか、など、文章構成を考え、字数の概算を立ててから書き出します。論理的整合性があるかどうかが大事です。内容の独創性（オリジナリティ）も大切ですが、内容がスッキリと相手に伝わらなければ、どんなにいいことを書いていてもその良さが発揮されません。

箇条書きでよいのです。短文で要旨をまとめるところからスタートです。PREP の順に短文を並べ、十分意味が通ることを確認してから書きます。

プロットの例 （実際にはEの部分の書き方にもいろいろある。他の部分も然り。）

①P：私はAが必要だと考える。【主張】

②R：それは～～～だからだ。【根拠】

③E：私が実際にAに取り組んでみたときに、～～～。【具体例】

E'：Aは非常に～～～である。【Aの有用性】

E'：たしかにBの方が～～～というメリットがあり、～～～に役立つという意見も考えられる。しかし、Bは～～～という問題点を抱えており、必ずしも必要だとは言えない。それに対しAは～～【反駁】

④P：したがって、私は～～～というAが必要だと考える。【再主張】

★練習（前段階）としてステップ②に取り組みましょう。

問い合わせながら思考を整理！

とにかく書く！思いついたこと、アイデア、プロット、など、何でもいいから書く！書くことから始まります。最初からうまくいくはずがありません。というか、「うまくいった！」「これがベスト！」はありえないかもしれません。

大人になっても、いつまで経っても、その時その時で相手に伝えるための真剣勝負をしていく覚悟を持続続けることが大切です。

自分の考えをなんとか伝えたいという熱さと、そこに論理性を求める冷静さを併せ持てるよう、日々精進していくため、今からできることをしていきましょう！！